

神奈川県立鎌倉支援学校における学校運営協議会開催結果

本校の学校運営協議会を下記のとおり開催した。

審議会等名称	令和5年度 神奈川県立鎌倉支援学校第1回運営協議会		
開催日時	令和5年 6月22日(木) 午後9時30分～午後11時00分		
開催場所	会議室		
出席者	委員：7名 事務局：6名		
次回開催予定日	令和5年10月26日(木)		
問合せ先	神奈川県立鎌倉支援学校 副校長 望月 好子 電話番号 0467-45-1951 ファックス番号 0467-43-4808		
下欄に掲載するもの	議事録	議事概要とした理由	
審議(会議)経過	<p>1 学校長挨拶</p> <p>2 自己紹介</p> <p>3 令和5年度の学校運営協議会について(副校長)</p> <p>①組織体制</p> <p>②年間活動計画</p> <p>③学校運営協議会開催と記録のホームページ掲載</p> <p>4 令和5年度学校目標について(副校長)</p> <p>①令和5年度学校評価報告書(目標設定)</p> <p>②人権が尊重された授業づくりのためのチェックリスト</p> <p>③不祥事防止ゼロプログラム</p> <p>【質疑応答】</p> <p>○ Aさん</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権や意思決定支援に取り組んでいこうとしていることがわかる。 ・不適切な指導がどういう場面で起こるのか。福祉においては人手が足りない劣悪な労働環境だった場合。また、トップの姿勢や仲間同士のやりとりから、職員が追い詰められていくことも多い。 ・悪者を見つけるのではなく、悪くならない環境づくりが大事である。 ・ヒヤリハットはどの程度のレベルのことか。ヒヤリハットを「気をつけようね」だけでは覚えることが増えるだけ。どういう方策を立てるのが大事。人間の脳には限界があり、余裕をもって仕事ができるように、大変だと思っていることは改善しなくてはならない。 ・方向性としてはとてもいいので、一歩ずつがんばってほしい。 <p>○ Bさん</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ前は、福祉避難所運営ゲームを地域の人も参加して行った。避難所ゲームはよ 		

くあるが、福祉避難所運営ゲームは内容が支援学校向けで、扱いに困る内容も多い。支援が深まる良い機会になるため、地域と一緒にやれたらよい。こちらから地域に声かけすることもできる。

- ・肢体不自由教育部門高等部の福祉避難所受付体験の授業を、毎年地域と一緒にやっている。お互いにより効果が得られる。地域と顔を合わせて知り合う良い機会である。
- ・防災士ネットを利用して、講習会や講演会のお手伝いもできる。積極的に声をかけてほしい。鎌倉市の社会福祉協議会を通すのもよい。

○ Cさん 進路の話として

- ・現在、企業にとっては障害を持った方々に、より多く働いてもらいたい環境となっている。現在の法定雇用率は2.3%。1000人従業員の会社なら、23人は障害を持った方に働いてもらいたいということになる。2026年7月には2.7%になるこの雇用率は大きな会社にとっては危機的状況である。
- ・企業では思っているより重度の方も多く働いている。会社に見学に来てほしい。少しでも企業就労に力を入れてほしい。
- ・目標の中で、分教室の進路に関わる内容にふれられていなくて残念に感じる。

○ Dさん

- ・昔は企業就労といえば身体障害者が多かったが、最近は精神の手帳の方も多い。7割は発達障害の方である。この方たちは定着率がよい。仕事がぴたっとはまることがある。
- ・コロナ禍では消毒作業という特需があったが、今はそれがなくなって困っているところもある。
- ・例えば掃除のお仕事の場合。どこからどこまできれいにしているのかわからない。それがきっかけで仕事をやめてしまうこともある。具体的に、わかりやすくが大事である。
- ・相鉄線が大好きな方がいて、双眼鏡でよく見ていた。どんな仕事があるか、広告をかえたり、つり革をきれいにしたりする仕事ならできるかと考えた。相鉄愛がすごく、結果、働けることになった。
- ・好きなことからできることを紐解いていけるとよい。その人がもっている強みをどのように引き出すかが大事である。新しい経験を学校でしながら、何が強みになるかを考えてほしい。

○ Eさん

- ・自社は9割が知的障害の方である。急に電車が止まってしまった！というようなときには、バスを乗り継いで出勤してくることもある。こちらがびっくりするような意外な行動をとれることがある。未知の力を持っている。難しいかなと思っていてもできることが多い。そういう目で見てほしい。

○ Fさん

- ・肢体不自由教育部門には企業見学のお知らせがない。(知的障害教育部門に配付されている)

○ Gさん

・学校のいろいろな事情もあり、企業側もどこでも個別に見学を受け入れているわけではないが、小学部のうちからいろいろ見学ができるとうい。

○ 校長

・職場環境という点では、教員の人材確保が難しい状況である。現場の教員が健康でにこやかに働けるよう、努めたい。教員は多岐にわたって仕事量が多い。

○ Hさん

・チェックリストを見て、横のつながりは見えるが、縦のつながりはどうか。

○ 校長

・以前、学校は「なべぶた方式」だったが、今は総括教諭が8人いてリーダー業務を担っている。

5 学校予算・学校施設及び設備等の管理及び整備について(事務長)

【質疑応答】

○ 校長

・体育館のエアコンは県への要望を PTA が何年も継続して出してくれたおかげで実現した。

・学校全体が古くなっていて、前庭のアスファルトはギザギザしていて危ない。外壁にペンキも塗ってほしい。

・「まなびや基金」といって、寄付をダイレクトにいただいてそれを活用することもできるようになった。

○ 教頭

・トイレや厨房のエアコンも皆様の働きかけにより、つけていただいた。皆様の努力の成果です。

6 連絡事項・その他

【質疑応答】

○ Iさん

・目標達成に向けては日常的な取り組みが有効である。困りごとなどがあれば一緒に考えていきたい。関谷川が増水して道路にあふれた時には、鎌倉支援学校の中を歩いて下校させていただくこととなった。

○ Jさん

・目標のところの「保護者に分かりやすいお知らせ」ということは大事である。教育関係者は専門用語やシステムを使いがちである。事故防止会議については、本校では月ごとに職員が担当する。職員発信であることにより、いかに自分事としてとらえるか

が大切で、みんなで話し合う場となることが望ましい。

○ 教頭

- ・福祉避難所、企業就労、働き方改革などいろいろな内容で話し合いができた。働きやすい環境の中で、子どもたちがそれぞれ持っている強みや未知の可能性を引き出す授業をしていきたい。いただいた意見を日々の指導にいかしていきます。ありがとうございました。